



西日本支部

山口大学の微生物研究者の連携

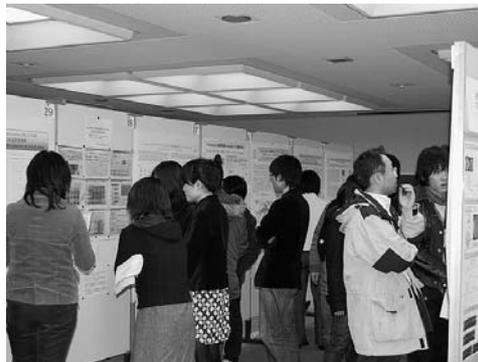
—微生物研究推進体—

星田 尚司

山口大学には農学部・理学部のある山口市吉田キャンパス、医学部のある宇部市小串キャンパス、そして工学部のある同じく宇部市常盤キャンパスの3つのキャンパスがある。医学部と工学部間は自転車で往来できる距離ではあるが、両キャンパスから吉田キャンパスまでは35 kmほどあり、自家用車で片道1時間程度の道のりである。それぞれのキャンパスに微生物を扱う研究者がおり、互いにその存在は知りつつも、以前は研究面での交流や連携は必ずしも活発ではなかった。分散したキャンパスは研究設備の共同利用や関連セミナーへの参加などでも制約を受ける。複数キャンパスからなる大学では少なからずこのような問題を抱えていると思われるが、これらの課題を克服し、学内研究者間のネットワークを強固にすることが、大学の活性化を図るうえで欠かせない。

5年前に山口大学では大学の核となるような研究分野の強化や学際領域研究の活性化を目指して、研究推進体と呼ばれる学部・学科横断的研究グループの形成が呼びかけられた。研究推進体の組織化・活動に当たっては地域や産業社会のニーズにこたえる視点も重視されている。組織された研究グループは学長の認可により研究推進体となり、いわば学長のお墨付きを得たことになる。しかし、大切なのは組織後に研究グループとして連携・融合した活動による研究の大幅な進展や新たな展開に結びつけられるかである。

このときに、山口大学の微生物関連研究者が集まって組織された研究推進体が「微生物の機能解析および機能開発」、通称、微生物推進体である。発足当時、微生物推進体には3つのキャンパスに分散する4学部5学科から15人の教員が参画した。徐々に構成員が増え、現在は10学科などから20名が微生物推進体メンバーに名を連ねている。発足当時、参加する教員の専門分野から次の3つの研究分野の連携を強化していくことでスタートした。



研究集会でのポスター会場の様子

- 発酵微生物学分野
微生物有用遺伝子の機能解析とその発現系の開発
- 病原微生物各分野
病原性微生物のゲノム解析と感染症戦略のための基礎及び開発研究
- 環境微生物学分野
共生微生物の遺伝子機能解析と環境微生物の機能開発

それぞれ分野での連携はもちろんであるが、分野間の融合も進んでいる。たとえば、ゲノム解析を得意とする病原性分野の教員が、新規有用発酵微生物のゲノム解析に協力し成果をあげている。また、環境微生物分野の研究に分子生物学的手法を導入する体制もできた。平成17年には優れた研究推進体であるとの大学の評価を受け、スーパー推進体と認定された。これにより大学からの強力なバックアップを受けて、新たな連携テーマの立ち上げなど研究を活性化している。

また、微生物推進体では年に1度、研究集会を開催している。研究集会では推進体メンバーや学外研究者による研究発表のほか、ポスター発表の場を設けており、各研究室の学生を中心に多くの発表がある。構成員数の増加とともに参加者、ポスター発表数も年々増加し、昨年度は参加者161名、ポスター発表70件に上った。この中には周辺大学や企業からの参加者も含まれ、外部に開かれた研究交流の場として機能している。また、4年生にとっては自身の研究について研究室外の人と初めて議論をする機会となっている。いわば学会デビューとなることが多く、研究の位置づけを捉えたり、人に説明する難しさを知るいい刺激になっている。

山口大学での研究推進体の制度は5年をめどとすることになっており、一応の区切りを迎える。微生物研究推進体ではさらなる研究の活性化、研究力の強化を目指して、微生物という枠にとらわれない一回り大きな連携を視野に入れて前進していこうとしている。